

令和6年度 学校教育自己診断の結果と分析

泉尾工業高等学校

生徒

「1 学校へ行くのが楽しい」(肯定率 75.8%)

昨年度は肯定率が前年度比で 1.3 ㊦、一昨年度比では 5.8 ㊦と、2 年連続で減少した。これは学校生活への満足度を示す総括的な指標であり、本校の教育活動全体のあり方が問われていると受け止めている。今後は、生徒一人ひとりの思いや成長を大切にしながら、より充実した学びや生活が実感できるよう、教育活動の質と内容の向上に努め、肯定率の向上を図る。

「2 学校のルールを守って学校生活を送っている」(肯定率 94.0%)

卒業後に就職を希望する生徒が多い本校において、社会で信頼される人間としての基盤となる規範意識の醸成は、重要な教育目標の一つである。今後も、生徒が日々の学校生活を通して自らの行動を見つめ直し、望ましい判断や行動ができる力を育むことができるよう、生徒指導の充実を図り、肯定率が高い水準で維持できるよう継続して取り組む。

「9 工業に関する知識や技術が身についたと感じている」(肯定率 91.8%)

昨年度・一昨年度ともに 90%以上を維持しており、本校の教育活動の成果がうかがえる。各工業科においては、実習と座学の両面から、学んだ知識や技術が日常生活や産業社会においてどのように活かされるかを意識させながら、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導を実践してきた。今後も、専門的な知識と技術を主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、将来を見据えた実践的な学びの場をさらに充実させる。

「10 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(肯定率 89.3%)

昨年度から 1.4 ㊦の微減となったが、高い水準を維持している。これは、生徒が安心して質問できる授業環境づくりに努めてきた成果であり、あわせて日頃から教員と生徒との間に望ましい人間関係が築かれていることを示している。今後も、生徒の疑問や関心に丁寧に応える姿勢を大切にしながら、主体的な学びを促す教育環境のさらなる充実を図る。

「11 教室や実習室など校内美化が行き届いていて、学習しやすい環境にある」(肯定率 76.6%)

昨年度より 1.5 ㊦減少している。快適で整った学習環境は、生徒の集中力や学習意欲に大きく影響を与えることから、清掃活動の充実や教室内の整理整頓の徹底を通じて、生徒自身の美化に対する意識を高める取り組みを推進する必要がある。教育環境の整備とともに、生徒が主体的に環境づくりに関わる態度の育成を図り、教育活動のさらなる充実をめざす。

「12 学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している」(肯定率 81.7%)

各種アンケートの実施や授業における学習活動などでの端末の使用頻度は徐々に高ま

っているものの、活用の効果を一層高めるためには、指導方法や教材の工夫を含めた、より効果的な活用方法についての研究と実践の深化が求められる。今後も ICT を活用した学びの質の向上を図り、教育活動のさらなる充実につなげていく必要がある。

「13 将来の進路や生き方について考える機会がある」(肯定率 87.1%)

昨年度より 2.3 割減少している。進路指導や生徒指導の場面に限らず、日常的な生徒との関わりの中で、将来の進路や生き方に関する話題に積極的に触れることが重要である。生徒が自らの将来を主体的に考え、目標を持って学習や生活に取り組むことができるよう、意識の高揚を促す働きかけや指導方法の工夫を進め、教育活動のさらなる充実を図っていく必要がある。

「14 命の大切さ社会のルールについて学ぶ機会がある」(肯定率 87.9%)

昨年度より 0.7 ポイント増加している。これは、道徳教育や生徒指導をはじめとする様々な教育活動を通じて、命の尊さや社会の一員としての責任についての理解を深める取り組みの成果であると考えられる。今後も、具体的な事例や体験的な学びを取り入れながら、生徒の内面に響く指導を工夫し、より豊かな人間性の育成を目指して教育活動の充実を図っていく必要がある。

「20 泉尾工業に入学してよかった」(肯定率 78.9%)

昨年度より 6.9 割減少し、2 年連続で減少している。この傾向は、生徒の学校生活満足度が低下している可能性を示す。今後は、生徒が充実感を持てる教育内容や指導方法の見直し、学校行事や交流の活性化が必要である。また、生徒の意見を積極的に取り入れ、改善に反映させる体制を整えることが求められる。加えて、学校の魅力を中学生や保護者に効果的に発信し、志願者増加につなげる広報活動も重要である。

教職員

「1 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(肯定率 90.3%)

肯定率は高水準を維持しているものの、昨年度より 5 割低下した。原因として、業務の多忙化や対面での情報共有の機会減少が考えられる。今後は、ミーティングの時間確保や ICT を活用した情報共有の工夫を通じて、教職員同士が意見交換しやすい環境を整えることが重要である。教育への思いを共有し、全教職員が連携して教育活動を推進する体制づくりが求められる。

「8 教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応えている」(肯定率 100%)

肯定率が 100%を記録した。これは、生徒・保護者の声に耳を傾け、教育活動に反映しようとする意識が教職員全体に浸透している表れである。一方で、この結果に満足することなく、現場での具体的な対応が実際に生徒や保護者に届いているかを常に検証し、期待に応え続ける姿勢と実践力を維持・強化していくことが重要である。

「11 生徒指導において、家庭との連携ができている」(肯定率 93.1%)

肯定率は高い水準にあるが、昨年度より 2 割減少している。家庭との連携は、生徒の成

長を支えるうえで大きな役割を果たしており、学校と保護者が共通理解をもって対応することが求められる。今後も電話や面談、ICT ツールなどを活用し、保護者との継続的な関わりを大切にしながら、生徒指導の質の向上と教育活動の充実を図っていく。

「17 各分掌や工業各科、教科の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(肯定率 64.5%)

昨年度より 14.1 ㊦と大きく減少している。組織内での連携不足や情報共有の不十分さが背景にあると考えられる。今後は、定期的な情報交換の場の確保や、業務の目的や役割を明確にすることで、相互理解を深め、組織全体としての一体感を高めていく必要がある。教育活動の効果を最大化するためにも、より実効性のある連携体制の構築が求められる。

保護者

「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」(肯定率 82.6%)

昨年度より 2.7 ㊦減少している。子どもたちが安心して学び、充実した学校生活を送れているかに対する保護者の実感がやや低下している可能性がある。今後は、学校行事や授業内容の工夫、居心地の良い環境づくりを進めるとともに、保護者との連携を強化し、子どもたちが楽しく通える学校づくりを目指す必要がある。

「4 学校の生徒指導の方針に共感できる」(肯定率 77.9%)

昨年度より 7.4 ㊦減少している。これは生徒指導に対する保護者の理解や納得感が低下している可能性を示している。今後は生徒指導の方針や具体的な取り組みをより分かりやすく保護者に伝え、意見交換の機会を増やすことで共感を深め、信頼関係を強化する必要がある。保護者との連携を密にし、生徒指導の効果的な推進を図っていく。

「10 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(肯定率 89.8%)

昨年度より 1.4 ㊦減少している。進路指導に対する満足度は高いものの、より多様な情報提供や個別対応の充実が求められている可能性がある。今後は、保護者との連携を強化し、進路相談の機会を増やすとともに、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた丁寧な指導を進め、安心感を高めることが必要である。

「12 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(肯定率 85.7%)

昨年度より 21 ㊦の大幅な増加を示した。この結果は、学校が保護者とのコミュニケーション強化に努めてきた成果であると考えられる。今後も多様な連絡手段を活用し、保護者との信頼関係をさらに深めるとともに、家庭と学校が連携して子どもたちの成長を支える体制をより一層充実させていく必要がある。

「18 泉尾工業高校に入学させてよかった」(肯定率 89.9%)

昨年度より 7.1 ㊦減少している。保護者の満足度が低下している背景には、学校生活や進路指導、学習環境などへの期待とのズレが考えられる。今後は保護者の声を積極的に取り入れ、教育内容の充実や情報発信の強化を図るとともに、信頼関係の構築に努め、満足度の回復と維持を目指す必要がある。